

長期の脱ステロイド後に母子で治療し家事と園生活が戻った成人・小児アトピーの経過 (46 歳 女性・幼児)

症例 ID：001-40-KK7 | 記録日：2017 年 6 月 13 日

1. 診断・治療前経過

母親は約 25 年前にステロイドを中止し、その後も症状の波を経験しながら社会生活を送っていました。
2015 年、2 歳の子どもの治療を開始しました。母親も子どもと一緒に改めて治療をしたいと考え、漢方入浴や煎じ薬を取り入れた数か月後、顔と鼠径部に赤みとかゆみが出ました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	母親は若年期にステロイドを使用しました。子どもの使用歴は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	母親は 25 年以上前まで使用しました。
中止時期	母親は記録の約 25 年前に中止しました。
来院前／後	母親は来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
約 25 年前	母親の中止	ステロイドを中止し、その後も複数回の症状の波を経験しました。
2015 年	子どもの治療開始	2 歳の子どものが松本医院で治療を開始しました。
数か月後	母親の再燃	顔と鼠径部に赤みとかゆみが出ました。
症状の強い時期	生活への影響	約 10 日間、家事や送迎ができず、親戚の支援が必要でした。
約 1 年間	治療継続	半年に 1 回受診しながら遠隔治療を続けました。
1 年後	母親の経過	顔の赤みが目立ちにくくなり、日々の予定をこなせる体力が戻りました。
記録時点	子どもの経過	肘内側に時折軽い症状が出る程度で、園生活を送っていました。

4. ピーク時期

母親のピークは、夜通し眠れず、皮膚の落屑と全身の疲労で約 10 日間起き上がれず、家事や送迎ができなかった時期です。

5. 困りごと

- 母親が家事と送迎をできず、親戚の支援が必要でした。
- 顔の赤みを隠すため、眼鏡、マスク、タートルネックを使用しました。
- 母子の治療を並行する必要がありました。

6. 経過のまとめ

母親は大きなリバウンドを体験しましたが、約 1 年後には顔の赤みが目立ちにくくなり、毎日の予定をこなせる体力が戻りました。

子どもは肘内側に時折軽い症状が出る程度となり、園生活を送っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。